

進化しつづける大学

# DESIGN YOUR FUTURE

デザイン思考とリスクマネジメントで  
香川大学のすべての学部が進化する。

未来はあなたの手の中にある。そう信じる香川大学は、大学での高度な学びと、あなたの創造性を結び付け、新しいイノベーションをつくるための教育を積極的に進めています。2018年4月からは新たに設置予定の創造工学部、医学部臨床心理学科(設置申請中)、経済学部の再編に加え、全学部で「デザイン思考」と「リスクマネジメント」という、社会に新たな価値を生み出すメソッドを展開。最先端の学びで、自分しか描けない未来をデザインしていきましょう。





卵を使った機械設計の授業は、現在は大学3年生向けに開講されています。限られた材料を使い制限時間の中でもものづくりを行うのは、実社会や企業でも一緒です。細く紙を切ってこよりを作りパラシュートの糸代わりにする人、紙を丸めてクッションにする人、フタをするのを忘れて落下途中で卵が飛び出してしまう人…。ラッキーな成功もあるそうですが、「大切なのは自分の頭で考え、それを自分の言葉で説明できること」。石原准教授はそう説明してくれました。

平成30年4月に開設予定の「創造工学部」では、デザイン思考とリスクマネジメントをベースに、世の中に付加価値を生み出す工学について、ユーザーのニーズから発想するという新しい手法で学んでいきます。工学の幅広い分野を横断する授業も多く、企業や海外との共同研究などにも1年から授業で紹介していきます。「実社会のプロジェクトでは、自ら課題を見つけてそれを解決することが求められます。ゼロから付加価値を生み出すのは困難ですが、学んだ知識を使い、人と協働することで新たな価値を生む方法を大学でも体系的に学ぶ機会を準備しています」と話す鈴木桂輔教授。プロジェクトを通して学ぶ一例として、現在「機械設計」の授業で行われている卵を使った実験を紹介してくれました。

これは、生卵を現工学部の最上階11階から落としても割れない方法を設計し、実際に落として結果を測定するというもの。使う材料はA4のわら半紙、30cmのテープ、ハサミのみ。テープは卵に触れてはならず、制限時間は3時間。指導する石原秀則准教授によると今年成功したのは4人だったそう。「目的のための設計を学ぶこと、自分のアイデアを形にする経験をするのが狙いです。課題解決には何をどう考えるかが大切。卵の入れるモノだけに注力する学生もいますが、実はビルに吹く気流などのリスクも考えねばなりません」。形はパラシュート型が多い中、カエデの種にヒントを得た回転式、卵をキャッチする方法に工夫する変わり種もあ

### What's Faculty of Engineering and Design?

香川大学創造工学部でめざす「次世代型工学系人材」

本学部では、イノベーション創出のために体系的に確立された思考方法『デザイン思考』の能力と、ユーザー・技術者双方の立場であらゆるリスクを想定・防止し、緊急時における適切な対応を身につけるためのリスクマネジメント能力を養います。現代社会の課題解決に新しい道筋を示すこれらの能力を日本の高い技術力と融合させ、社会に強く求められる『次世代型工学系人材』を養成します。



り、学生の個性が出るそう。自分で考え、成功や失敗要因をロジカルに分析しレポートで伝える経験を通して、プロジェクトを成功に導くための機械設計とは何かを学んでいきます。

「学生さんは化けるんですよ」と鈴木教授は続けます。「従来もプロジェクトや卒業研究を通して自分の強みに気づき、リーダーシップを発揮する学生さんがいました。創造工学部では7コースの中から自分が興味を持つことや強みを見つけられるよう、コースをまたぐような授業を取り入れます」。先生方も産業界での経験がある人が多いので、知識と実践をリアルに学べる場になるそうです。創造工学部でエンジニアリングは、もっと人の未来に近く、エキサイティングなものになるに違いありません。

# Q.1

11階の屋上から卵を落とす。割れない方法を考えなさい。

イノベーションを、新しい手法で学ぶ。

# 創造工学部



# 地域活性の アイデアを 考えなさい。

海外ではクールなインテリアとして人気の盆栽も、日本ではまだ「おじさんの趣味」「古くさい」と思われがち。高松市は盆栽の生産量日本一を誇るものの、その認知度は低く、生産現場は後継者不足に悩まされています。2012年、盆栽をもっと身近なものにしようとして香川大学経済学部的女子学生4人がBonsai ☆ Girls Project、略してBGPを発足。若い女の子の視点で盆栽の魅力を紹介していきます。「活動は主に盆栽教室、盆栽づくりワークショップとSNSでの情報発信の3つ」と話すのはリーダーで経済学部3年生の川本和季さん。「まず自分たちが盆栽を知ることから始めます。高松の生産者さんに盆栽の知識と技術を教わり、学んだ内容を自分の言葉で伝えます」。最近では企業からもワークショップの依頼が増え、全国のテレビや新聞でも活動が紹介されるようになりました。

BGPの相談役、経済学部の古川尚幸教授は「BGPは主体的に活動する『自力で稼ぐ』を目指しており、やっている内容は実は企業活動と同じなんです」と言います。高松盆栽の価値を伝え、BGPを広く知ってもらう活動はマーケティングですし、価格設定には戦略の知識が必要。メンバーをまとめる幹部はリーダーシップのあり方を組織論の授業で学びます。「経済学部の授業には現場で直面する問題を解決するヒントがあります。学生は日々の授業で学んだことを現場で試し、その結果から学ぶ。理論と実践を行ったり来たりすることが勉強になるのです」。BGPをはじめ多くの学生プロジェクトがある香川大学では、習った知識を実地でどう生かすかを、学生のうちから経験できます。経済学部だけではなくいろいろな学部の学生が関わることで、学生もお互いから学んでいると話す古川教授。学びの過程を理解し支えてくれる地域の方が多いのも本学の特長です。

BGPのように学んだ知識を実践に活用し、自分なりの問題解決方法を見つけられる人が育つ—そんな人こそ、本当の地域貢献を担うと香川大学は信じています。



## 現メンバーは26名!

26人の学生の所属は経済・法・農学部。BGPは経済だけでなく、法や農の知識も実践する場になっています。



## ランチタイムミーティング

週に一度は集まってミーティング。ワークショップの内容や講習会で学んだことなどを共有します。



## 花澤明春園さんでの苔玉講習会

花澤登人先生から高松盆栽の講義を受けるBGPメンバー。苔玉を作るメンバーの表情はとても真剣。



## インスタのコメントは海外から

Twitter、Facebook、Instagramで、英語と日本語で盆栽情報を発信。楽しそうな写真に海外からも注目が。



実践的な学びで、経済学の応用力を培う

# 経済学部

## What's new in Faculty of Economy?

### 経済学部での学びのポイント

来春からは経済学部は1学科5コース制となり、1-2年生は経済学・経営学の基礎や幅広い領域を学び、2年後期からコースを選択し各自の専門性を深めるようになります。自分の適性をじっくり見極められると同時に、コースを横断した学びが柔軟にできるのが特長です。



## ワークショップ依頼も増加中

「BGPの知名度がアップするにつれて、高松盆栽への理解も深まっているという手応えを感じています」。





これから  
心理職には  
どのような  
視点が必要か？

Q.3

心理職と聞いて、あなたはどんな人か、思い浮かべますか？病院や学校のカウンセラー、臨床心理士、国家資格となる公認心理師、「心理援助者が活躍する分野は保健医療・教育・福祉・産業・司法と幅広く、ニーズも増えています」と臨床心理学科開設の準備を進めてきた医学部の上田夏生教授。医療現場でも高齢化と生活習慣の変化に伴い、認知症、糖尿病など「長く付き合う」病気が増え、患者さんを全体的に診るためには心のケアも重要だという機運が高まっています。

従来、心理学は主に文系の学問体系の中で学ばれてきましたが、現役の心理援助者には「医学を勉強したかった」と考える人が多いのだとか。患者側も、心理援助者は医学的知識を持っているものと期待している現実もあります。心と体が密接につながっているように、心理学と医学をつなげたい。香川大学は国立大学の医学部では初となる臨床心理学科を、全国に先駆けて新設することになりました。

### What's Department of Clinical Psychology in Faculty of Medicine?

心理学と医学の基礎を身につけて一人ひとりにかかわる

教育系や文学系ではなく、医学部で臨床心理学を学び、研究し、実践する。これは全国の国立大学では初めての試み。人の心や生き方に寄り添うには、気持ちだけでなく高度な専門性が必要。それらを育み、一人ひとりの暮らしも地域も社会も、より豊かにします。



臨床心理学科では心理学と医学の両方を体系的に学びます。1年次から医療や福祉の現場で早期体験学習を、4年次には隣接する附属病院での実習を行い、医学科や看護学科の学生とともに多職種連携能力を磨きます。勉強やサークル活動などで生涯の仲間に出会えるのも特長です。

も育てたい」と上田教授。心理に興味がある人は文系理系にとらわれずに挑戦してほしいと続けます。医学の視点を持ち、実践的に心理学を学ぶ4年間。来年の春、いよいよスタートです。

国立初、心理学 × 医学で心にアプローチする

# 医学部 臨床心理学科 誕生



# PICK UP 社会貢献分野

地(知)の拠点大学による  
地方創生推進事業(COC+)



地域に貢献する大学として、瀬戸内地域活性化プロジェクトでは地域資源を生かした新しい取組を発信。地(知)の拠点大学による地方創生推進事業では、教育機関として地域に貢献する人材育成にも取り組んでいます。

瀬戸内地域活性化  
プロジェクト



# 国際希少糖 研究教育機構

希少糖を専門的に研究する世界唯一の研究組織。生産設備を持ち、機能を解明する研究に世界中から注目されています。



# PICK UP 研究分野

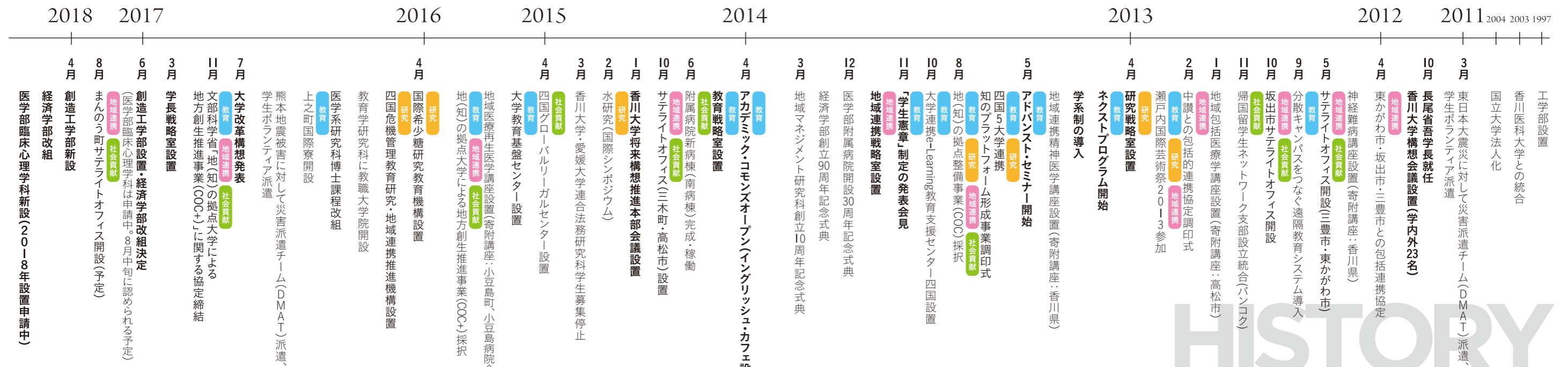
かがわ遠隔医療  
ネットワーク(K-MIX)



香川大学は2003年に全国で初めて、インターネットを利用した「かがわ遠隔医療ネットワーク(K-MIX)」をスタート。日本の地域連携や遠隔医療発展の一翼を担ってきました。

# 大学改革へ、 香川大学 20年の軌跡。

大学改革に至るまでの約20年間、香川大学ではさまざまな先進的な取組を行ってきました。地域の教育と人材育成、高度かつ最先端を追求する研究、香川や四国での課題解決に貢献する地域連携、それらの活動を通じた社会貢献。工学部が開設されてから20年、香川大学が取り組んできたさまざまな事項を、「教育」「研究」「地域連携」「社会貢献」の視点で振り返ります。

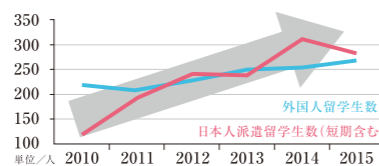


# HISTORY

# PICK UP 教育分野

学外の最先端の研究を紹介するアドバンスト・セミナー、語学力強化、防災士養成、読書を通して人間力を育成するネクストプログラムを開設。「香川から世界へ、世界から香川へ」を標榜した4&1プランを策定し、グローバル人材育成に向け様々な取組を実施。

## 4&1プランの成果



## ネクストプログラム

- グローバル人材育成プログラム
- 防災士養成プログラム
- 人間探究プログラム



## イングリッシュ カフェ



## アドバンスト セミナー



# VISION

香川大学は、新たな未来を考え創造する人材の育成を目指し、平成30年度から生まれ変わります。それは、創造工学部新設、医学部臨床心理学科新設(2018年設置申請中)、経済学部改組等により、全ての学生が「デザイン思考」を身に付けられるよう、「デザインII付加価値を創造する」という考え方をあらゆる学問分野に展開していきます。これまで私たちは、学生の学修意欲に応えるために「香川大学ネクストプログラム」、「香川大学アドバンスト・セミナー」、地域活性化や地域の課題解決に向けたフィールドワーク、幅広い教養教育など、特色あるカリキュラムを充実させてまいりました。中長期の海外派遣留学生数も中四国国立大学でトップクラスです。

未来を創造するには、あるべき理想の姿を思い描くことから始まります。思い描いた理想を形にするには、幅広い教養と深い専門知識・技術と地域に根付いた歴史と文化、風土を自然に身につけた地域人間力が必要です。文理のバランスのとれた学部を持つ香川大学はこれらの力を身に付けるのに最適な場所であるとの信念のもと、全学的な改革に取り組んでいます。

香川大学を見守り、ご支援をいただいた地域の方々に改めて感謝申し上げます。

長尾省吾学長が語る  
変革の時代に  
未来を見据えた大学改革。

